

(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

#### II.家族との支え合い

#### III.地域との支え合い

#### IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 8 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3871000174
事業所名	グループホーム伊予の郷
(ユニット名)	1階
記入者(管理者)	
氏名	田村 圭介
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1. 利用者の生活を大切にする                  2. 常に相手の立場に立ち行動する                  3. 人生の先輩としてお年寄りを敬う</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・入居者のケアプランを一覧表にすることにより、職員が個々のケアプラン内容を把握し、記録、評価することができた。                  ・地域住民の方との交流は前回と同様で野菜を地域の方に持って来て頂いたりしている。納涼祭や秋祭り等、大きな行事での交流はあったが、ホーム内での行事の参加はあまりなかった。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>母体法人の医療機関や介護老人保健施設と共に高台に事業所は建っており、利用者や来訪者は壮大な景色が見渡せ、心地よい風の通る爽やかな空間となっている。今年で開設20周年を迎える事業所は、掃除が隅々まで行き届いており、衛生的で整頓された快適な環境が保持されている。毎食、事業所のキッチンで職員が交代で手作りしている食事は、とても家庭的で利用者に好評であり、職員も事業所の魅力の一つだと感じている。また、法人・事業所として働きやすい環境が整備されていることもあり、勤務年数の長い職員が多く、職員の離職も少ない。事業所では、チームワークの良い職員同士がみんなで協力しながら、利用者の穏やかで楽しみのある生活を支援している様子を窺うことができた。</p>
--	--	--

## 評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	普段より個々にコミュニケーションをとっていることが多いのでその時に本人の希望等、聞いている	◎	/	○	利用者のペースに合わせて職員が声かけをしており、丁寧に一人ひとりの意向の把握に努めている。アセスメントシートには、利用者のこれまでの経過や生活背景・様式、趣味、性格など、利用者や家族から、職員が丁寧に聞き取った内容が記録されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	把握が困難な入居者はその都度話し合いをし、どう対応するか、検討している	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会が多い方はよくお話ししているが、少ない方はあまりお話しができていない	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	気づきや変わったことがあれば、毎日の個人記録に記入し日誌や申し送り情報共有している	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	その人の視点に立ったケアをするように努めている	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時にアセスメントを家族さんに渡しており、その情報をもとに職員は情報共有している	/	/	◎	職員は入居時に利用者や家族から、これまでの暮らしなどを聞き取ったり、記載してもらったりするほか、以前利用していた介護サービス事業所からも情報収集を行い、職員間で共有している。幼少期からの利用者の生活歴についても、可能な範囲で職員は利用者や家族から丁寧に聞き取っている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	ケアプランにもできること、できないことシートがあり、リハ職員と連携して残存機能の維持に努めている	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	職員は個々の生活を把握しており、毎日の生活の中で何か変わったことがあれば介護記録に残し、情報共有している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	コミュニケーションをとることで、要因が何か把握に努めている。家族様にも相談する時がある	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	変わったことがあれば、介護記録に書き、申し送り等で情報共有している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	その都度カンファレンスを行い、職員が情報共有して相手の立場に立ったケアを心がけている	/	/	○	職員が個別に利用者から聞き取った情報は、ミーティング等の場でしっかりと職員間で共有している。利用者一人ひとりの新たな情報をもとにして職員間で検討することで、より良いサービス提供ができるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	定期的なカンファレンスや家族へ毎月ホームで生活している状況を報告し検討している	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	カンファレンス時に職員に問題提起してもらい、検討している	/	/	/	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の立場に立ったケアプランを作成している	/	/	/	事業所では、入職後3か月程度で職員が担当の利用者を受け持つことになっており、先輩職員に教えてもらいながら介護計画の素案を作成している。また、介護計画は、利用者の意向や家族の思い、担当職員の意見、他の職員のアドバイス、様々な気持ちなどを反映し、利用者本位に立った計画となっている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	日々のケアについては本人又は家族様に話しをしている。又、ホームには病院、老健があり、それぞれの専門分野の方にも相談している	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	入居前に家族様から過去の生活の状態を聞いてできるだけその人らしい生活ができるよう支援している	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	病院の受診等、協力してくれる家族様が多いが、地域の方とあまり交流できていない	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	定期的なカンファレンスやミニカンファレンスで意見をだしあい情報共有している	/	/	○	介護計画の目標は一覧表にまとめられ、職員が日々の記録時に確認しやすいよう工夫されている。日々の記録は分かりやすく簡潔にまとめられているが、具体的な利用者一人ひとりの様子や、職員の気づきやアイデアなどの記載が少ない。さらに充実した記録となるよう職員間で検討し、内部研修の機会を持つなど、新しい工夫された記録方法等を望みたい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	毎日ケアの記録はしている。職員個々が目を通して実施しているか確認している	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	入居者の状態等、変わったことがあれば、個人記録に残している	/	/	△	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	できる限り、個人記録に残すようにしている	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3か月に1回又は状態変化に伴ってカンファレンスをしている	/	/	○	毎月モニタリングを実施し、カンファレンスで検討して情報共有している。また、3か月に1回、介護計画を見直し、家族には事前に電話や来訪時のタイミングを利用して相談している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月のカンファレンス時に行っている	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態が変化した場合は新たに計画を作成し、家族又は、関係者に連絡をしている	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的に月1回行っているが、必要があれば、その都度開催している	/	/	○	毎月実施しているカンファレンスでは、利用者一人ひとりの情報共有を行い、必要に応じて検討をするほか、業務等の話し合いをしている。利用者の状態の変化など緊急の検討が必要な場合には、その日の出勤職員で検討し、後日その他の職員にも申し送りされている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	日頃より、話がしやすい環境は整えている	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	夜勤者は参加できないが、朝又は夕に開催し、できるだけ参加してもらうようにしている	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	◎	連絡ノート、連絡簿に記入して各職員はみている	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌や連絡ノートに記載し職員は目を通してサインしている	/	/	○	事業所では日誌や連絡ノートを活用し、職員全員が正確に情報共有できるよう工夫している。確認後に職員は確認印を押すなど、伝達漏れのないよう留意している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌や連絡ノート、職員連絡簿をみて、情報共有している	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	個々に合わせてできるだけしたいことができるよう努力している	/	/	/	利用者と一緒に買い物に出かけた場合には、職員はゆっくりと利用者を選んで買い物ができるよう心がけている。日頃から、職員は小さな事柄についても選択肢を提示し、利用者を選んでもらっている。また、利用者の衣類の洗濯にも、家族が用意した好みの香りがする洗剤を使用するなど、利用者の選択を尊重した支援をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	なるべく個人の決定に従うよう努力している	/	/	/	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自分の意思表示できる方の意見は尊重している 分かりにくい方はその人の表情をみて対応している	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人の生活パターンは把握しており、できるだけ本人のペースに合わせて支援している	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	その人に合わせた対応を心がけている	/	/	/	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	常にその人の表情をみて対応するよう、心がけている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	ホームの運営理念のもと、その人に合わせた声かけを行っている	○	◎	○	事業所の理念にも、「人生の先輩としてお年寄りを敬う」という表記があり、新入職員への研修では、この点を強調して管理者等は説明をしている。ベテラン職員は利用者を敬う気持ちを常に持って接しており、さりげない声かけや対応を実践することで、新入職員の良いお手本となっている様子が窺える。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	その人のプライバシーに配慮した声かけを行っている	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	その方の身体能力に合わせて介助、自立支援に努めている	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室時にノックして入っている	/	/	/	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	情報共有しているが、外部には漏らさないようにしている	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	入居者と一緒に洗濯たたみ、食器拭き等して、労いの言葉かけをしている	/	/	/	日々の利用者同士の細かいトラブルは、職員が寄り添って気分転換できるように支援している。利用者の病状によっては、どうしても他の利用者や衝突してしまうことがあり、職員は利用者の対応方法について様々な工夫を試みながら支援している。事業所では、他のグループホームとも意見交換をするなど、いろいろな意見や助言をもらいながら、より良いサービス提供ができるよう検討している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	お手伝いしてもらって感謝の言葉を伝え、労いの言葉をかける	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	○	席は利用者の状況に応じて対応している。トラブルになりそうな時は職員が間に入って話題を変えたり、他のことをしてもらおう等、気分転換を図るようにしている	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際は職員が間に入り、治めたり話題を変えるなど対応している	/	/	/	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居前に家族構成等書いている用紙があるので、それに記入してもらい、情報を把握するようにしている				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人、家族、ケアマネから情報を得ている				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	家族の協力を得て途切れないよう努力している				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室へ誘導し、ゆっくりお話して頂けるようにしている				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	重度な入居者の方が多い為、外出することはほとんどできていないが、外気浴、散歩等できることをしている。でかけれる人はドライブ等、行かれている	○	○	○	事業所では、定期的に利用者と一緒に買い物や花見、外出などに出かけていたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、利用者の外出を控えている。外出できる機会は減っているが、テラスで外気浴をしたり、ドライブをしたりするなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	外出時は職員のみで行っている				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	玄関前で日光浴、盆踊りや秋まつり等参加して楽しんでいる			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	家族さんと一緒にいちご狩りや外食等、行っている。最近ではドライブでそれらのことができていないが、ドライブに行く等できることをしている				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	入居者の状態については職員は情報共有しており、入居者のペースに合わせてケアをしている				事業所には、定期的に法人の理学療法士の訪問があり、職員は杖や歩行器などの適切な利用方法、生活の中で利用者のリハビリについて助言を受けることができる。利用者の状況に合わせて、一人ひとりのリハビリなどの計画を盛り込み、調理の下ごしらえや居室でできる運動など、職員が声をかけたり見守ったりしながら、実践できるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	理学療法士の指示のもと維持向上に努めている				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	野菜切りや食器拭き、洗濯たたみ等できるだけ自分でできることはして頂き、見守るようにしている	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	その人のできること、できないことを把握して家事手伝い等、支援している				定期的に事業所として、外部の専門講師を招いて音楽療法を実施しており、楽しみにしている利用者もいる。毎年、梅干しやらっきょうを漬けることも事業所の恒例行事となっており、得意な利用者が中心となり利用者全員で楽しみながら準備をしている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防で利用者の外出を控えているため、職員は室内でできるレクリエーションを工夫して実施している。また、テラスのプランターで育てている野菜の世話や洗濯物たたみなど、職員は利用者がそれぞれの役割を持てるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	△	重度な人はできていないが、個々にできることを提供している	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	×	地域の中で役割は少ないが、秋まつりでは地元の神輿が入ったり、子供の提灯行列があり、お菓子を渡したりしている				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	自分で服を選ぶ方は自分でして頂くが、できない方はその人の好みを把握しているので声かけて服を着用している				日頃から、職員は利用者の髪形や服装の乱れについて配慮している。訪問調査日には、季節に合った装いで利用者全員が穏やかに過ごしている様子を窺うことができた。家族と一緒に以前から利用している行きつけの美容室へ出かけたり、事業所内では、これまでの生活習慣に合わせ、裸足で草履を履いて生活したりしている利用者があるなど、職員はこれまでの習慣や生活様式を尊重した支援を実践している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自己主張ができる方は本人の意思にまかせて、できない方は季節や状況に合わせて支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	普段から本人の好みを把握しているので声かけし、支援している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	本人の意思や個性を尊重している				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	食べこぼしの周囲等、さりげなく拭いたりしている	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人、家族に相談して訪問理容されている方もおられる				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	定期的に訪問理容の方が来られて支援している			○	
		17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	できるだけ手作りの食事を提供して喜ばれるよう支援している		
b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	入居者と一緒に買い物に行ったり、調理・後片付け等しているが、一部の入居者に限られている			○			
c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	できるだけ残存機能を生かすことで、活気のあるサービスが提供できるよう支援している						
d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	ケアマネや家族からの情報を聞いたり、本人とのコミュニケーションの中で好きなもの、苦手なものを把握している						
e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	○	季節の食材を取り入れることで季節感を感じて頂くように提供している			◎			
f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	食材に応じてその人に合わせた形態で提供している。調理によって食器を変えることでおいしく食べて頂くよう提供している						
g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	希望者は個人の箸や湯飲み等使用し、本人の状態に合わせた茶碗等使用している			◎			
h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	食事について話をしたり、声かけている			◎			
i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	食事ができた時の声かけやメニューを説明しながら、一緒に食卓を囲んでいる		◎	◎			
j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	水分摂取が少ない人は水分チェック表等を用い適量を目標に摂取して頂くようにしている						
k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	水分が少ない人はゼリーをとったり、食事が少ない人は栄養補助食品を使用している						
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士のアドバイスを受けながら、メニューのかたよりにくいよう努めている			○			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	ハイター消毒を行っている。食材の期限等に注意している						

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医師により指導を受け、実施している	/	/	/	利用者一人ひとりの居室には洗面台があり、それぞれの自室で食後に歯磨きをしている。職員は利用者の口腔内の状態を適宜確認し、必要に応じて週1回訪問歯科の受診をしてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	歯科医師からの情報提供書により把握している。介助の方は食後に確認している	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	定期的に歯科医師の指導を受けている	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	手入れの際は立ち会って支援している	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	声かけや介助により毎食後行っている	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	○	毎週の訪問といつでも連絡できる体制をとっている	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	ダメージを理解しながら尿意、便意がある人はトイレ誘導し排泄を促している	/	/	/	職員は、できるだけ利用者がトイレで排泄ができるよう支援している。状態に応じて、おむつやパッドを使用している利用者もいるが、月1回のカンファレンスで排泄用品の使用についても検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	職員はほぼ理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	理解した介助をしている	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	本人の状態に合わせてオムツやパッドを使用し、必要に応じて見直ししている	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	食事内容や水分摂取に注意して自然に排泄できるように取り組んでいる	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	個々の排泄時間をみてトイレ誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	本人又は家族に同意を得て適切に使用している	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	日中、夜間のその人の状態に合わせて使い分けている	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	水分補給(乳製品)や食物繊維のある食べ物、体操等行っている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	利用者の希望に応じてはできていないが、利用者の体調に応じて支援している	◎	/	○	概ね3日に1回、利用者は午後の時間帯に入浴することができる。希望があれば、利用者は毎日でも入浴することができ、職員は柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	個々に合わせて対応している	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	声かけしながらできるところは洗ってもらったり、浴槽に入ってもらったり個人に応じて行っている	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	声かけし気分をかえながら入浴できるよう誘導している	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェック、入浴時の全身観察、入浴後の水分補給及び必要な人の軟膏塗布している	/	/	/	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎晩の夜勤の観察により個々の睡眠パターンは把握している	/	/	/	日中の活動など身体を動かしてもらうことにより、夜間帯にしっかりと眠れている利用者が多い。睡眠導入剤など眠前薬を処方されている利用者も数名いるが、職員は主治医とよく相談しながら、必要に応じて調整してもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中の活動や休息の時間を工夫しながら、夜間寝れるよう取り組んでいる	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	職員間で情報共有し医師と相談しながら薬の使用を検討している	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	その人に合わせた時間で休息をとっている	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	できる人は希望に沿えるよう支援している	/	/	/	/
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	個々に合わせた支援をしながら季節に応じた絵手紙を郵送している	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	本人の訴えがあれば電話はできるようにしている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	本人に読み聞かしたり、手の届くところにおいている。電話でも近況の報告している	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族に理解して頂き協力をお願いしている	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	理解できている	/	/	/	/
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	1階は重度な方が多く、自分の意思で使用することができない	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	1階は重度な方が多く、本人の意思によつての買い物はできない	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	希望の沿えるよう支援している	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	本人が管理できる方は自分で持っておられるが、できない方家族又は本人と話し合い職員の方で管理している	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	家族の方には定期的に出納帳のコピーを送って理解して頂いている	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	散髪等本人の希望に沿うようにしている	/	◎	○	利用者の希望に応じて、職員は訪問マッサージの外部サービスを依頼し、調整して来てもらうなど、できる限り柔軟に対応できるよう心がけて支援している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>(3)生活環境づくり</b>									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	花を植えたり、出勤ボードや掲示物を置き、出入りしやすいようにしている	◎	○	○	玄関の周りには花やベンチが配置され、親しみやすい雰囲気になるよう配慮されている。玄関には、その日の出勤職員が分かるよう、写真入りで表示しており、玄関内も明るく広々としている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	定期的に季節を感じる掲示物を掲示している	◎	○	○	事業所の廊下や階段も広々として開放的であり、職員手作りの月見の飾りなどがあり、利用者や来訪者は季節を感じることができる。共用空間には、古いお釜やお櫃、草履などの古い道具が飾られ、利用者にとっても懐かしさを感じる空間づくりがされている。また、事業所内は掃除も行き届いており、快適な環境となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	すだれや芳香剤を設置し、掃除もしている	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	ぬり絵や季節のカレンダー装飾と一緒に、居室、廊下に掲示し、季節感を感じている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う人が近くなるように席を配置している	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	カーテンで目隠しをしたり、その都度戸を開めることによりプライバシーを確保している	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの物を持って来られていいことを伝えており、タンズ写真等飾り物を持って来られている	○	/	/	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられている。居心地のよい環境となるよう、居室に自宅から馴染みの物を持ち込むことができる。テレビや家族等の写真を飾っている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	建物内部はバリアフリーになっており、手すりも設置しているトイレ、自室等、名前を書いて分かりやすいようにしている	/	/	◎	浴室やトイレには、利用者が認識しやすいよう大きな表示している。トイレや廊下には手すりを設置しているほか、廊下には数か所ソファを置き、利用者が移動しやすく、ひと休みできる場所を確保するなど、生活しやすい工夫をしている。また、居室の入り口には手作りの表札を掲げ、利用者にも入室が分かりやすいよう工夫している。ユニットの出入り口には、利用者には「外出する際には、職員に声を掛けてほしい」と貼り紙をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	不安や混乱の物はその都度検討し対応し見守りしている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	できる方と変わらないような環境を提供しているが、その人の状態によっては物を置けない方もおられ、その人に応じて対応している	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態では暮らしの不安、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	◎	玄関は施錠せず、自由に出入りができるようにしている人の出入り口はチャイム等でわかるようにしている	◎	◎	◎	20年前の開業当初から、事業所では日中施錠をしておらず、職員はユニットの出入り口に設置してあるセンサーで対応している。職員はお互いに声をかけ合いながら、協力して利用者を見守っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族等にはかえって施錠すると不安や混乱を招くことがあるので、していないことを説明している	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	◎	日中は鍵をしていない、人の出入り口は人感センサー等で分かるようにしている	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	カルテに記載されており、職員は把握している。変わったことがあれば、日誌にて申し送りをしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	入居者の状態に変化がある時はバイタル測定して個人観察記録、バイタルチェック表に記録している				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	24時間看護師とは連絡がとれる体制が整っている。必要時は先生にも連絡とれる。母体が病院であるので入院ができる体制は整っている				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	母体が病院ではあるが、できるだけ、本人、家族の希望に沿うようにしている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	家族が他の病院へ受診につれて行かれる時はここでの様子を家族から先生へ説明している				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	病院へ受診に行かれた時はその都度、家族へ状況を説明し理解して頂いている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時はサマリを書いて情報提供を行っている				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	病院へ入院した時は職員が病院へ見舞いに行った時に状態を聞いたり、また定期的に病院担当者に連絡して状態を聞いている				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	◎	母体が病院の為、ほとんどの入居者が母体の病院へ入院しているため、入院した際は病院担当者との定期的な情報交換している				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	週に1回の訪問看護と月に1回の往診、変わったことがある時はその都度連絡し、指示をもらっている				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	24時間看護師とは連絡がとれる体制が整っている。必要時は先生にも連絡とれる。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	緊急時はすぐに連絡がとれる体制が整っている				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	薬局より、薬の説明書が届いており、職員は理解している				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬を服用する前に職員は名前をみて確認して服用している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	本人の状態については個人観察記録に記録している。便秘や下痢についてはバイタルチェック表をみながら対応している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	変化や異常があれば先生や看護師、家族に連絡している				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時はもちろん、状態の変化にそって話し合っている	/	/	/	母体法人は医療機関であり、終末期が近づくと入院を希望する家族も多い。事業所では看取り支援も行っており、利用者や家族、主治医とも十分に話し合って支援方針を決めている。現在、事業所には終末期を迎えた利用者があり、事業所で看取り支援を実施する方向で、家族や訪問看護師、主治医と相談しながら穏やかに支援している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	医師や看護師、職員と話し合いを持ち情報共有している	○	◎	/	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	終末期については職員がその都度、話し合いをして対応している	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	本人の状態をみて、その都度、家族に説明し理解を得ている	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	母体より、先生、看護師が普段から来ており、入居者の状態は把握できているので、連携はとれている	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族の不安な事などは面会時等で話しをしている	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症のマニュアルがあり、定期的ではないが、勉強会等している。母体が病院でもあるので、病院での研修にも参加して学んでいる	/	/	/	母体法人は医療機関であり、終末期が近づくと入院を希望する家族も多い。事業所では看取り支援も行っており、利用者や家族、主治医とも十分に話し合って支援方針を決めている。現在、事業所には終末期を迎えた利用者があり、事業所で看取り支援を実施する方向で、家族や訪問看護師、主治医と相談しながら穏やかに支援している。
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症のマニュアルはあるが、定期的な訓練は実施していない	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	母体が病院でもあるので、最新の情報は病院より、情報を入手している	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	病院と連携がとれているので、地域の情報収集はできている 感染症の時期はその時の状況に応じて対応している	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員は手洗いやうがいは徹底している。玄関先には体温計や消毒液を置いており、感染予防に努めている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	面会にあまり来られない家族もあり、喜怒哀楽を共にできていないが、毎月、近況報告の手紙を送ったり、電話で報告することもある	/	/	/	毎月、家族へ事業所の便り等を郵送し、利用者の状況を伝えているほか、職員は適宜電話連絡もしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策で行事を中止や縮小をせざるを得ないが、年間を通して行事はあるため、納涼祭やいちご狩りなどには家族も参加している。また、事業所では、年2回家族会を実施しており、約9割の家族が参加し、相互の意見交換をしている。法人内で職員の異動もあるが、このところ職員の入退職はない。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	お茶の時間に一緒に飲んで頂いたり、居室で自由にお話ししてもらい、職員も近況報告に行ったり、世間話もしたりと来訪しやすい雰囲気作りを心がけている	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	行事がある時、いちご狩りや外食等、家族が参加できることは案内をだしている	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	毎月の近況報告のお便り、ケアプランの結果報告等を送り伊予の郷便りは年に4回、誕生日の写真つきのメッセージ等を送っている	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会に来た時は話しをして病状が変化した時は電話で説明又は状態によっては医師からの説明もある	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人の現状を常に職員と家族間で共有して対応している	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のおたよりや面会時に報告している	/	x	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	運営推進会議に参加して頂いたり、年2回家族会を行い交流を図るようにしている	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	転倒のリスクが予想される時は家族に報告し相談、対応している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時に近況報告している	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居届や退去届があり、重要事項説明書を用い、入所時に説明して納得してもらっている	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	病気で長期入院などは、話し合いを重ね、主治医を交えカンファレンスを行い、納得してもらったうえで退去されている受け入れ先にもサマリーなどの情報を渡し、連携をとっている	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	契約時及び料金改定時は文書を送付して納得して頂いた上で同意書に署名して頂いている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階の事ははっきり分らないが、地域の方が入居されているので、長年の間に理解して下さる方も多い	/	○	/	管理者は、以前から事業所と地域とのつながりを課題と捉え、事業所の避難訓練などの行事には地域住民に参加してもらうほか、地域の行事にはさらに積極的に参加したいと考えている。今後は、地域住民にグループホームの理解を深めてもらえるよう、地区の会議に参加させてもらうことなどを検討している。また、日頃から、事業所には地域住民が畑で取れた野菜を届けてくれたり、防災訓練に参加してもらったりするなどの交流をしているため、管理者は、「さらに、もう一歩地域に踏み込んだ交流をしていきたい」と積極的である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	△	町内会、自治会への参加、地域の活動や行事にはあまり参加できていないが、地域の方から野菜や米を購入したりお祭りや納涼祭では地域の方を招いて交流を図っている	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	地域の方は民生委員や区長、元入居者の家族さんなどが協力してくれるが、なかなか増えていない	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	△	地域との交流は少ないが、時折野菜をもってきてくれたりしている	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	外で会うと挨拶はしているが、日中会うことはあまり少ない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	近所の方は難しいが、ボランティアの方が踊りや歌を披露してくれたり行事の手助けをしてくれる	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	時折、ドライブ等で地域をまわったりして楽しませている	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	毎日買い物に行くスーパーやグループ内のコンビニ、また消防訓練などで地域の方や消防署からも来てもらい交流している	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	全員の家族ではないが、運営推進会議には数名参加して下さり、地域の方も民生委員や区長も来られ、意見交換している	/	○	○	運営推進会議には、家族や地域住民にも参加してもらい、利用者の様子も見てもらえるようリビングのスペースを活用して開催している。管理者は、市内の他のグループホームの運営推進会議にも参加させてもらっており、会議の議題や開催方法などの情報交換をしている。また、会議では日頃の利用者の様子や外部評価の結果などを丁寧に報告し、参加者からも意見をもらうことができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事の報告をしたり、新しい取り組みなどを家族さんに話している	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	ホームからの報告などが多くなり、意見を聞くようにしている。出た意見は前向きに受け止め、職員間でも話し合っている。結果については報告できない時もある	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	運営推進会議や家族会の日程も家族さんの意見をできるだけ聞いて配慮している	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	特に議事録の公表はしていないが、いつでも公表はできる	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホームの運営理念は壁に掲載されており、日々理念に基づいて、共通認識を持って一貫性のあるサービスが提供できるよう支援している				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	理念を廊下に貼っているが、利用者や地域の方は知らないかもしれない、ホームページには載せている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	内部では定期的な勉強会をしたり、外部研修では職員に情報提供して参加されている				法人として福利厚生が充実しており、スポーツ大会などのレクリエーションで職員同士の交流を図るほか、定期的に個別面談があり、職員の悩みなど相談ができる体制もできている。暑い時期には事業所の職員の熱中症を心配し、法人として飲み物の差し入れがあるなど、職員は様々な面で働きやすさを感じている。職員は交代で、法人内研修や外部研修に参加できる体制もできている。また、法人・事業所として、働きやすい環境づくりできているため、勤続年数が長い職員が多く、離職者も少ない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	OJTは計画しているがその通りには行っていないが、その都度、勉強会を開催したり、伝達講習をしている				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	ラダー表で自己評価や管理者が評価し、代表者も全体を把握している。面接も行い、職員の意見を聞き、向上していくよう努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	地域密着型の勉強会に順番に行くように段取りしたり、同グループの勉強会にも参加している				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	働き方改革で有給を使用したり、職員の事情によっていつでも休めるようにしている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	日々の関わりで虐待なのかどうか、その都度話し合いをしている				職員は法人内研修や外部研修に参加して、虐待防止等を学んでいる。事業所では、職員間のコミュニケーションが取れていることから、不適切なケアが疑われた場合には、職員同士お互いに声をかけ合える環境づくりができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	入居者のケアについて、何かあればその都度、話し合いをしている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の関わりの中で、申し送りの時等、話し合いをしている			◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の日々の様子を見ながら、変化がある時は、声かけをして対応している				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	身体拘束についてのマニュアルはあり、一部の職員は理解できているが、全職員が理解できているかは定かではないので、理解するよう努める				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	日々の関わりの中で、その都度検討し対応している				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	身体拘束についてリスクがあることを家族に話し、いろいろな対応があることを家族に話し、理解して頂いている				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	あまり理解していない職員が多いと思うので今後は外部研修等に参加して理解しなければいけない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	今、必要とされる方がいないので、パンフレット等はないが、相談された時は対応していく				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	必要な時は相談ができる体制はできている				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	24時間訪問看護に連絡できる体制は整っており、急変、事故が発生しても対応できるようにしている				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	応急手当や初期対応については定期的に訓練をしているわけではないが、その都度、話し合いをしている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	ヒヤリハット報告書はあまり書けていないが、事故報告書は書いており、事故を未然に防ぐよう努めている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	転倒リスクが高い人等、ケアプランにあげており、事故がおきないように努めている				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情マニュアルはできていないが、玄関入り口に意見箱を設置し、何か意見、苦情があれば、職員で話し合うようにしている				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	重要事項説明書には苦情、相談窓口が記入されており、必要時には市にも相談、報告している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情や相談があった場合、真摯に受け止め、職員間でも話し合い、家族とも話し理解をしてもらえるよう心掛けている。無記名ではあるが、意見箱を設け、参考になっている				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	個別に聞くこともあり、また、家族にも何か問題はないか聞いたり、運営推進会議で意見を聞いたり、意見箱に気付いた事など記入してもらい、実情の把握に努めている			○	利用者や家族からの要望に対しては、職員から積極的に声をかけるなどの配慮をしており、思いを引き出すことができている。日頃から何かあれば、職員は気軽に管理者や職員に相談できる関係性が構築されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	言いにくい時は意見箱があり、要望等は家族会の時に聞いたり、また面会時に聞くようにしている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時に説明し、重要事項説明書に窓口を記載しているが継続して伝えていない				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	時折ではあるが、職員と直接お話しをして、意見や要望を聞いている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	職員が意見を言いやすい関係は作っているが、面接時などに改めて聞くなどし、利用者の希望が少しでもかなうよう、話し合っている			◎	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回自己評価をする機会があり、目標や反省をすることでサービス向上に努めている				毎回、外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議等の場において、管理者等が丁寧に報告している。前回の外部評価後に、地域の役員交代もあったことから、管理者は「今回の報告ではより詳しく説明し、理解を得たい」と考えている。これまで、参加者から何か具体的なアイデアが出された訳ではないが、外部評価のアンケートからも、家族と地域ともに外部評価についての理解度は高い結果となっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	外部評価前には、ミーティングで意見を出しながら、反省や確認をし、意識統一に努めている				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	自己評価は反省し次に生かし、新しい目標を立て、外部評価で指摘を受けた問題は課題とし取り組みようにしてきたができていない時もある				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果は運営推進会議で報告しているが、今後のモニターまではしてもらっていない	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	×	目標達成計画が達成できるよう、努めているが、取り組みの成果は確認できていない				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	日中、夜間を想定し、火災訓練などを行い、いざという時、対応できるよう周知している。今後は土砂災害訓練等、行う必要がある。				事業所の防災訓練には、地域住民や一部の利用者家族も参加しており、訓練等の協力体制が整っている。訓練には消防署や市内の他のグループホーム等との連携も十分に取れているが、訓練に参加していない家族への報告や伝達が十分でない様子が家族アンケートの結果から窺えた。法人・事業所としての災害への備えについて、家族へ分かりやすい説明を行い、理解が得られるような工夫を期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	いろんな時間帯で訓練を行っており、消防署からの指摘などを次の訓練に生かしている				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常食・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に消防設備点検を行っており、避難訓練時にも消防署の方から避難経路の確認がある。非常食はいつも米や野菜があり、同グループでも非常食がある				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防訓練は地域の方にも参加してもらい、消防署の指導も受けている。今回は1度コロナの為、ホーム内で訓練をした	×	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	同市内のグループホームの消防訓練に参加して参考にしたり、市役所の方などを招いて避難訓練を行い、消防署のアドバイスももらっている				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	×	運営推進会議にて実践報告はしているが、地域に向けて情報発信や啓発活動はできていない				事業所には、地域住民からの相談や見学に来ることも多く、積極的に相談支援を行っている。また、日頃から事業所として、地域の関係機関との連携を積極的に行っており、最近では、市内の他のグループホームと相互交流も開始している。管理者は事業所として、相互の他のグループホームの運営推進会議に参加したり、サービス提供など利用者への対応方法や支援方法に悩んだ場合には相談したりするなどの交流を深め、利用者のより良い支援につなげようとしている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域の方が入所希望で見学に来られることは多いので、相談に乗ったり、グループ内の施設や他の施設を紹介することもある		×	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	×	地域の方が集まる場所にはなっていないが、今後、地域の方が来やすい場所にすることが課題である				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	看護学生の受け入れ、その他研修の受け入れはしている				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	地域活動はあまり参加していないが、市や他のホーム等情報交換等行い、連携はとれている			○	



(別表第1)

## サービス評価結果表

### サービス評価項目

(評価項目の構成)

#### I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

#### II. 家族との支え合い

#### III. 地域との支え合い

#### IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!  
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

#### 【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 8 月 27 日

#### 【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 14名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

#### ※事業所記入

事業所番号	3871000174
事業所名 (ユニット名)	グループホーム伊予の郷 2階
記入者(管理者) 氏名	田村 圭介
自己評価作成日	令和 2 年 8 月 1 日

<p>【事業所理念】</p> <p>1、利用者の生活を大切に 2、常に相手の立場に立ち行動 する 3、人生の先輩としてお年寄りを 敬う</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>・入居者のケアプランを一覧表にして、職員がケアプランや具体的支援内容を把握し、記録に残すことで、出来ていることできていないことがわかるようになる。</p> <p>・地域との交流は、野菜を地域の農家よりしたり、運営推進会議に参加してもらい、消防訓練など、実際にしている事をみてもらったりしているが、コロナウィルスの流行で運営推進会議も、書類での報告となった月もある。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>母体法人の医療機関や介護老人保健施設と共に高台に事業所は建っており、利用者や来訪者は壮大な景色が見渡せ、心地よい風の通る爽やかな空間となっている。今年で開設20周年を迎える事業所は、掃除が隅々まで行き届いており、衛生的で整頓された快適な環境が保持されている。毎食、事業所のキッチンで職員が交代で手作りしている食事は、とても家庭的で利用者に好評であり、職員も事業所の魅力の一つだと感じている。また、法人・事業所として働きやすい環境が整備されていることもあり、勤務年数の長い職員が多く、職員の離職も少ない。事業所では、チームワークの良い職員同士がみんなて協力しながら、利用者の穏やかで楽しみのある生活を支援している様子を窺うことができ</p>
---	---	--

## 評価結果表

項目 No.	評価項目	小 項目	内容	自己 評価	判断した理由・根拠	家族 評価	地域 評価	外部 評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>I.その人らしい暮らしを支える</b>									
<b>(1)ケアマネジメント</b>									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	一部の利用者の意向は把握できているが身体的、認知的に難しい方もいる	◎	/	○	利用者のペースに合わせて職員が声かけをしており、丁寧に一人ひとりの意向の把握に努めている。アセスメントシートには、利用者のこれまでの経過や生活背景・様式、趣味、性格など、利用者や家族から、職員が丁寧に聞き取った内容が記録されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族に情報を聞き本人の気持ちを考えたり、今まで生きてきた人生観などを知りケアしている	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人の会話から出てきた人物や出来事について家族に話を聞いて申し送り情報共有している	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人の思いなど聞いた時には記録に残し、引継ぎ、カンファの時に話しあったりしている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	思いを伝えることができる人については可能だが、意思疎通が難しい方は表情で見極めたり家族の考えを聞いたりする	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入所時の面談の時に話を聞き、家族に生活歴や性格など独自の様式に詳しく記入してもらい把握している。入所後も面談時に家族に気になる事は聞いている	/	/	◎	職員は入居時に利用者や家族から、これまでの暮らしなどを聞き取ったり、記載してもらったりするほか、以前利用していた介護サービス事業所からも情報収集を行い、職員間で共有している。幼少期からの利用者の生活歴についても、可能な範囲で職員は利用者や家族から丁寧に聞き取っている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	独自のできること、できないことの様式に記入したり、リハ職員と連携しADLの把握に努め残存機能を使うよう努力している	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	◎	一人一人の性格や病気からの症状で違うので、職員間で情報を共有し、毎日の生活パターンからもわかるよう記録している	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかり等)	○	本人の話を傾聴したり、気分を変えたりすることでおさまることもあるので、職員同士でカバーしながら、要因を把握し共有している	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	一人一人の介護記録を読み、変化があった事を申し送りをし、情報を共有することで変化を把握している	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	◎	カンファレンスや申し送りで情報交換したり話し合い、家族にも相談し協力してもらい、本人の求めていることを知るよう努力している。	/	/	○	職員が個別に利用者から聞き取った情報は、ミーティング等の場でしっかりと職員間で共有している。利用者一人ひとりの新たな情報をもとにして職員間で検討することで、より良いサービス提供ができるよう努めている。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	精神疾患がある場合は主治医にも相談し、また、毎日の申し送りで話しあったり、本人の希望を聞いたりしている	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	◎	毎月経過表に、日々の出来事などをプランにもとづき記入し、問題点考えるようにしている。	/	/	/	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	△	意向や思いに沿うように努力しているが、意思疎通の難しい方などは、介護者の願いのようになっていることもある				事業所では、入居後3か月程度で職員が担当の利用者を受け持つことになっており、先輩職員に教えてもらいながら介護計画の素案を作成している。また、介護計画は、利用者の意向や家族の思い、担当職員の意見、他の職員のアドバイス、様々な気持ちなどを反映し、利用者本位に立った計画となっている。	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	◎	面会時に本人、家族と話し、困っていること、うまくいっていることなど報告し反映するようにしている	○		○		
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	日により難しいこともあるが今までの情報や関わりをもとに、好きな歌と一緒に歌ったり、好きな食べ物などを提供しその人らしく過ごせるよう関わるよう努力している					
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族や地域の人たちとの関わりを盛り込んだ介護計画にはなっていないが、面会にきてもらったり、家族会や運営推進会議で関わりを持ってもらっている。					
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	◎	介護計画や具体的支援を一覧表にし、何に気を付けるかわかるように、ケアに生かしている。			○	介護計画の目標は一覧表にまとめられ、職員が日々の記録時に確認しやすいよう工夫されている。日々の記録は分かりやすく簡潔にまとめられているが、具体的な利用者一人ひとりの様子や、職員の気づきやアイデアなどの記載が少ない。さらに充実した記録となるよう職員間で検討し、内部研修の機会を持つなど、新しい工夫された記録方法等を望みたい。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	個人記録に拾い上げ記入し申し送りし、毎月モニタリングし経過表に記入し、気を付けることを再度確認している			○		
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	△	日々の暮らしの中での会話や顔つきなど、エピソードを記録しているが、いつもと変わらない時は一連の支援を記入することもある			△		
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	利用者により差はあるが、促してうまくいった事など記入し申し送りをしている。			△		
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	3か月に一度は介護計画の見直しを行い、変化のある方、状態の落ち着かない方に関しては毎月見直しをしている			○	毎月モニタリングを実施し、カンファレンスで検討して情報共有している。また、3か月に1回、介護計画を見直し、家族には事前に電話や来訪時のタイミングを利用して相談している。	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月経過表を記入することで、モニタリングができ、現状確認ができている。			○		
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	△	病状の悪化や精神状態の悪化がある場合も家族と話し合い、家族や担当医に相談しながら、薬の変更や対応を考慮しているが、介護計画については様子を見てから変更することもある。			○		
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月カンファレンスを行い、話し合い、急を要する場合は申し送り時にミニカンファをして話し合っている			○	毎月実施しているカンファレンスでは、利用者一人ひとりの情報共有を行い、必要に応じて検討をするほか、業務等の話し合いをしている。利用者の状態の変化など緊急の検討が必要な場合には、その日の出勤職員で検討し、後日その他の職員にも申し送りされている。	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	利用者の担当者が問題点や話し合う事を提案し、それについて意見を出し合うが、雰囲気作りなどは特に工夫していない。意見を言いやすいよう問いかけたりしている					
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	出勤者の多い日で夜勤者も参加できる時間帯にカンファレンスをしているが全員が参加できているわけではない。場所は利用者を見守りながらできる、食堂で行っている。					
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	カンファレンスの記録を記入し読む。また、変更があったケアについては口頭で伝えるようにしている。			◎		
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りで伝えたり、日誌に記録し、変更や情報が分かるようにしている			○	事業所では日誌や連絡ノートを活用し、職員全員が正確に情報共有できるよう工夫している。確認後に職員は確認印を押すなど、伝達漏れのないよう留意している。	
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	個人記録や日誌などに記録したうえで、申し送りで伝達し全員に伝わるようにしている。	◎				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	意思疎通の可能な方は聞きながらしているが、難しい方もおりできそうなことをしてもらうこともある。現在コロナ感染防止で思うように外出支援はできていない	/	/	/	利用者と一緒に買い物に出かけた場合には、職員はゆっくりと利用者を選んで買い物ができるよう心がけている。日頃から、職員は小さな事柄についても選択肢を提示し、利用者を選んでもらっている。また、利用者の衣類の洗濯にも、家族が用意した好みの香りがする洗剤を使用するなど、利用者の選択を尊重した支援をしている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	家事やレクリエーションなど声掛けし、苦手なことは無理強いをせず、本人が周りの様子を見ながら、やる気になるような声掛けをしたり、本人の意志を尊重している	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表現するように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	それぞれに合わせた声掛けをし、分かりにくい方は表情などで気持ちを汲み取ったりしている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	自分のペースで生活している方もいるが、自分で動けない方に関しては、意思の確認をしたり促したりし、支援している。食事時間はなるべく皆と一緒に食べるようにしているが、体調に応じて遅れて食べることもある	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	好きな話題をふったり、得意な事の話をしたり、傾聴して聞き出し笑顔になれるような声掛けをしている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	◎	目を見て話し、意思を確認したり、本人の体調を見ながら昼寝の声掛けをしたり、日時がわかるように、言葉で説明しながら生活の支援をしている	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	△	職員により言い方は違いますが慣れにならないよう、再度理念を思い出し、声掛けするよう注意し合っている。時には、言い方で失敗することもあり、フォローし合いながら、次に繋げている	○	◎	○	事業所の理念にも、「人生の先輩としてお年寄りを敬う」という表記があり、新入職員への研修では、この点を強調して管理者等は説明をしている。ベテラン職員は利用者を敬う気持ちを常に持って接しており、さりげない声かけや対応を実践することで、新入職員の良いお手本となっている様子が窺える。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	トイレの声掛けなど、人前で声を掛けてしまうこともあるが、耳元で小さな声で誘導したり、敬う気持ちを忘れないよう声掛けしている。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	重度の方のトイレ介助で、のれんなどで、戸を開けていても見えないようしている。また、入浴時も、脱衣所ではタオルをかけるなど、配慮している	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	◎	本人がいない時、居室に入る時は何をしようかを声掛けし、不快感にならないよう配慮している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	ホームの新聞なども、写真を載せてもいいか、入所時に確認しておき、職員も利用者の事を他人に話さないよう気を付けている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えをもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	利用者の方に洗濯たたみや食器拭きを手伝ってもらい、感謝の気持ちを言葉にしたり、話しながら家事をすることで、楽しみながら本人の必要性を表現するようにしている	/	/	/	日々の利用者同士の細かいトラブルは、職員が寄り添って気分転換できるよう支援している。利用者の病状によっては、どうしても他の利用者や衝突してしまうことがあり、職員は利用者の対応方法について様々な工夫を試みながら支援している。事業所では、他のグループホームとも意見交換をするなど、いろいろな意見や助言をもらいながら、より良いサービス提供ができるよう検討している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らすしていくことの大切さを理解している。	◎	一人ではない事をみなですと、一生懸命したり、楽しんだりできている姿を見て、集団生活の利点を感じている。他の人の食器まで運んでくれたり優しさを感じる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	◎	気の合いそうな方を隣同士の席にしたり、話がかみ合わなくなった時は間に入ったり、話題を変えたり、トラブルにならないよう心掛けている。なんでも理解できている方には、ある程度任せ、頼りにするようにしている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者にも不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	トラブルになりそうな時は間に入ったり、席を変えたりして雰囲気を変えて和やかな場を作るよう、心がけている	/	/	/	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入所時に家族や本人からアセスメントしており、本人からも生活の中で、会話しながら情報を得ることもある。				
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	△	地域との関わりが少なくなってきたり入所されることも多く、家族からの情報や本人の話から、把握しているが、詳しくはわからない場合もある。				
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	×	家族や親族との交流がほとんどで、友人との関係を続けている人は少ない。しっかりしている方には、知人の面会がある事もある。コロナウイルスの流行で、外出も難しいこともあった				
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	居室に椅子を出したり、コーヒーを出したりし、ゆっくりできる雰囲気にしてはいたが、コロナウイルスの流行で、面会を制限している				
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	ドライブに行ったり、食材の買い物に同行してもらったりしていたが、コロナウイルス流行からは、ベランダや玄関先で日光浴をしたり花を見たり気分転換してもらっている。時々、個別で花を見に、ドライブに行くことがある	○	○	○	事業所では、定期的に利用者と一緒に買い物や花見、外食などに出かけていたが、現在は新型コロナウイルス感染症予防のため、利用者の外出を控えている。外出できる機会は減っているが、テラスで外気浴をしたり、ドライブをしたりするなど、職員は少しでも利用者が気分転換を図れるよう努めている。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	地域の人やボランティアに外出支援をお願いすることはほとんどなく、職員、家族で行っている。				
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	△	ベランダで日光浴をすることはあるが、出来ない日も多い			○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	本人の希望も把握できない場合もあるが、行事で花を見に行ったりと楽しみを作るようにしている。コロナウイルスでしばらく自粛していたがドライブで気分転換していた。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	個人個人で勉強し理解している職員は多いが、勉強不足も見受けられる。経験から利用者の状態などの把握はできており、フォローしている				事業所には、定期的に法人の理学療法士の訪問があり、職員は杖や歩行器などの適切な利用方法、生活の中で利用者のリハビリについて助言を受けることができる。利用者の状況に合わせて、一人ひとりのリハビリなどの計画を盛り込み、調理の下ごしらえや居室でできる運動など、職員が声をかけたり見守ったりしながら、実践できるよう支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	同じ系列のリハビリ職員と連携を取り、一人一人の生活の中から出来ることを見つけ、目標に向けケアプランに盛り込み実施するよう努力している				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	洗濯たたみや食器拭きなど習慣化しており、自然に利用者の方が動いてくれるよう、環境づくりをしている。	◎		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	入居時に家族からも話は聞いており、出来ることはしてもらい、他の人につられてできるようになることもあり、職員も感謝の言葉を口にしている				定期的に事業所として、外部の専門講師を招いて音楽療法を実施しており、楽しみにしている利用者もいる。毎年、梅干しやらつきようを漬けることも事業所の恒例行事となっており、得意な利用者が中心となり利用者全員で楽しみながら準備をしている。現在は、新型コロナウイルス感染症予防で利用者の外出を控えているため、職員は室内でできるレクリエーションを工夫して実施している。また、テラスのプランターで育てている野菜の世話や洗濯物たたみなど、職員は利用者がそれぞれの役割を持てるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	出来ない方もあるが、頑張ったことなど言葉に現わしたり、ミニ菜園をしており、育て方や食べごろなど教えてもらう事もある。	○	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域の中で役割や出番は少ないがお祭りや近くの御神輿にまわったり、子供の提灯行列が来てくれお菓子を渡したりしている				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	全員ではないが自分で洋服をコーディネートする方もいる。厚着をする方などは季節に合わせ、職員が選び、声掛けすることで、落ち着かれている				日頃から、職員は利用者の髪形や服装の乱れについて配慮している。訪問調査日には、季節に合った装いで利用者全員が穏やかに過ごしている様子を窺うことができた。家族と一緒に以前から利用している行きつけの美容室へ出かけたり、事業所内では、これまでの生活習慣に合わせ、裸足で草履を履いて生活したりしている利用者があるなど、職員はこれまでの習慣や生活様式を尊重した支援を実践している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	自立している方は本人がして、援助が必要な方は家族からの情報や普段の生活を参考に、本人のこだわりなども把握し、支援している				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人の性格や普段の生活から好みの物を感じ取り、似合うものを用意している				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時はおしゃれな服装にしたり、コーディネートで色をそろえたりし、似合っていることを伝え、笑顔になるような声掛けをしている				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	車椅子の方などは起きてきたら、ブラシを手渡ししてもらったり、服を整えたりの支援をし、鼻水が出ていたり食べこぼしのある時はさりげなく、ティッシュを横に置くと自分で拭かれる。お手伝いする方もいる	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	本人の行きつけに行くかたはおらず、ホームに来てくれる美容師さんをお願いしている。髪型などの本人の希望をお伝えしている				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	普通と同じように、カットしてもらい、衣類などは家族に依頼したり、大きさなどのアドバイスをしている			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	自分達で献立を立てたり、季節の食材を取り入れ手作りの食事にもこだわり、昔ながらの手料理などを食べてもらっている				事業所では職員が献立を作成しており、必要に応じて法人の栄養士に相談し、助言をもらっている。食事前には、職員からその日のメニューについて話題提供があり、利用者と一緒に旬の食材について話すことも多い。買い物は可能な範囲で利用者や出かけ、職員が毎食丁寧に手作りで調理しており、利用者にも好評である。同じメニューを食べている職員にとっても、美味しい食事は事業所の魅力の一つと感じている。利用者は食事の下ごしらえなど、できることを一緒に手伝っている。リビングの一角にキッチンがあるため、一緒に作業ができない利用者にとっても音や匂いで食事の支度を感じることが出来る。現在は、新型コロナウイルス感染症対策で、食事中の会話を控え、職員も時間をずらして食事をしているが、職員はさりげなく利用者の様子を見て、少し声もかけながら見守りをしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	出来る方には、買い物同行してもらったり、野菜の下ごしらえや食器拭きをしてもらっている。中には、食器を棚に戻してくれたり役割として進んでしてくれる方もいる			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	一部の方ではあるが、買い物でナイロン袋に商品を入れたり、片付けなど快く手伝ってくれ、やりがいを感じている方もいる。現在はコロナ流行の為買い物は、自粛している				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	入所時の家族からの情報でも聞いているが、本人の食事の会話などから、好き嫌いは把握できている				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	一人一人に合わせるのには難しいが、嫌いな食材は盛り付け時に少なめにしたり、季節の野菜が手に入ったり、臨機応変にメニューを替えている。また、お彼岸におはぎを作ったり、誕生日にはちらし寿司やケーキを作っている			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	△	その人の咀嚼能力や嚥下の状態に合わせ、刻み食にしている方もいる。刻みも混ぜ込まず、一品ずつ刻み、何を食べているかわかるように盛り付けている				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	自分専用の箸を使ったり、片麻痺がある方は介護用の重い動きにくい器を使用している			◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなくやっている。	◎	一緒に食べながら話をしたり、介助が必要な方は声掛けしながらその人のペースに合わせて食べてもらっている。今はコロナ対応で、向い合わないよう配慮している			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	リビングの横に台所があり、調理の音や匂いがして、食事を楽しみにしている。わからない方もいるが、食事中、何を食べているか説明の声掛けをしている		◎	◎	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	食事を個人に合わせて調節し体重の増減を毎月見て、量を替えている。水分も少ない方は水分チェック表を付け介助で飲んでもらったりと配慮している				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	好きな物を補食したり、喉の渇きの見られる朝方や風呂上がり、寝る前など清涼飲料水などを飲んでもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	一汁二菜の献立で和洋中華でお年寄りでも食べられるメニューにし、咀嚼能力の低下している方には、刻みにしたり形態に気を付けている			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	まな板や布巾の消毒をしたり、毎日食材を仕入れに買い物に行き、新鮮な食材の購入を心掛けている				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	食後はうがいを促し、寝る前は義歯を外し、口腔ケアをしてもらっている。毎週、歯科往診もあり、どんなことに注意するか指導を受けている	/	/	/	利用者一人ひとりの居室には洗面台があり、それぞれの自室で食後に歯磨きをしている。職員は利用者の口腔内の状態を適宜確認し、必要に応じて週1回訪問歯科の受診をしてもらっている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	自立の方は本人に任せている。他の方は義歯を外すよう、寝る前には声掛けしたり、痛みがある時などは、状態を見せてもらったりしている	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	毎週、歯科医師と歯科衛生士が往診に来ており、指導を受けている。義歯の方が多いため、うがいを促している	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	毎日、寝る前には外してもらい、入れ歯洗浄剤につけている	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	入れ歯の手入れや口腔内の確認はしているが自立している方は本人に任せている。また、歯を触っていたり、痛みの訴えや違和感などある時は見せてもらって、歯科医師や医師に報告している	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	毎週、歯科往診があるので、依頼してみてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	身体レベルの低下している方もトイレでの排泄をなるべく試みているが2人介助でも立位の難しい方はベッド上での交換の方もある。声掛けもブライドを傷つけないよう配慮している	/	/	/	職員は、できるだけ利用者がトイレで排泄ができるよう支援している。状態に応じて、おむつやパッドを使用している利用者もいるが、月1回のカンファレンスで排泄用品の使用についても検討している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解しており、排便がスムーズにトイレでできるように、長く座ってみたり、牛乳を飲んでもらうなど便秘に気を付けている	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	毎日の生活パターンは記録などにより把握しており、自立している方もトイレが長い時など声掛けすると、排便確認ができる	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	二人介助から一人介助になりトイレでの排泄が成功する方もあり出来る力は残したいと職員で話し合っている	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	トイレの誘導時間を変えてみたりして、排泄パターンを探る努力はしている	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	自立の方も多く本人に任せているが、介助が必要な方はパターンを把握して誘導している	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一時的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	△	認知の軽いや自分からトイレに行く方は本人に選択してもらっているが、意思表示のできない方は家族と相談して選んでいる	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	○	布パンツで十分だが、便の拭き取りが難しい方は小さなナプキンサイズのパッドで対応したり、夜間はオムツだが日中は紙パンツで対応する方もいる	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	ヨーグルトをメニューに入れたり、牛乳を飲んでもらうなどしている	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	△	3日に1度の入浴が習慣化している。本人の体調に合わせて、時間帯は配慮し休んでから入浴するなど、希望も聞いている	/	/	◎	概ね3日に1回、利用者は午後の時間帯に入浴することができる。希望があれば、利用者は毎日でも入浴することができ、職員は柔軟に対応している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分に入浴できるよう支援している。	○	ゆず湯や入浴剤を使用したり、湯加減や湯舟にかかる時間などは声掛けしている	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	出来ることはしてもらい、洗身や頭を自分で洗うなどの、声掛けしながら、自然に手が動くように誘導している	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	拒む方はあまりおられないが、気分が乗らない時は、休んでから再度声掛けするなどしている	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前は必ずバイタルチェックをし顔色などを確認し入浴している。入浴後は清涼飲料水を飲んでもらい、休みたい方は昼寝を促している	/	/	/	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	毎日の記録で睡眠のパターンは把握しているが眠れない日の行動は細かく記録している				日中の活動など身体を動かしてもらうことにより、夜間帯にしっかりと眠れている利用者が多い。睡眠導入剤など眠前薬を処方されている利用者も数名いるが、職員は主治医とよく相談しながら、必要に応じて調整してもらっている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転の方はいないが、トイレの回数が多い方はある。夜間声掛けで時間を伝えるなどしている。日中、レクリエーションなどを起きている時間を楽しみ過ごせるよう配慮している				
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	落ち着いてきたら、主治医と相談し、安定剤の量を調節もらったり、眠剤を使用していた人も、年齢を重ね眠れるようになれば、眠剤を中止したりしている			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	傾眠がひどい時は、居室で休むよう声掛けしたり、身体の傾きがひどい時など体調に合わせて、休息を促している				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	コロナウィルスの流行で面会ができない間も家族に電話し話ができるように配慮していた。また、本人にはがきを書いてもらい、送ったりした				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	はがきも手を添えたり、アドバイスを一緒に内容を考えたり書いてもらい家族に安心してもらえるよう心掛けた				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	かかってくる電話は居室に持って行くなどし、話しやすい環境にしている。かけたいと言われる方はあまりいない				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	居室に貼るなどしていつでも見えるようにしている				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族との連携はとれており、不穏の時は電話で話してもらうこともあるが、落ち着いている利用者が多い				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	△	お小遣いを預かっている方が多く、本人が管理していない方がほとんどである。出来る方は通帳まで管理し一緒に記帳に行ったり引き出しに行っている				
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	出来ない方が多いが、一緒に買い物に行き好きなものを自分のお金から購入する方もいる				
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	職員が買い出しに毎日行く店の方は、理解してもらっているが、行ける方が決まっている				
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を自分で管理している方もあるが、全員は難しい				
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	所持能力のある方に関しては話し合っている				
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	出納帳を作り、入金や支出を記入し、半年に1回は出納帳の写しと、領収書を送付している				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	家族や本人の希望で訪問マッサージを利用したり、同じ系列の餅つきを見に行ったり、地域のお祭りで神輿に来てもらったりしている	◎		○	利用者の希望に応じて、職員は訪問マッサージの外部サービスを依頼し、調整して来てもらうなど、できる限り柔軟に対応できるよう心がけて支援している。



項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先に表札や看板があり、玄関から入るとすぐ、今日の出勤者の写真を掲示している。玄関にも季節の飾りつけをしている	◎	○	○	玄関の周りには花やベンチが配置され、親しみやすい雰囲気になるよう配慮されている。玄関には、その日の出勤職員が分かるよう、写真入りで表示しており、玄関内も明るく広々としている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものを置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	リビングに季節の飾りつけをし、お年寄りと一緒に作った作品なども展示したり、日頃の活動の様子を写真に撮り飾っている。居室は家庭から持ってきたタンスがあり、写真を飾ったり、利用者によりテレビを置いていて過ごしやすくしている	◎	○	○	事業所の廊下や階段も広々として開放的であり、職員手作りの月見の飾りなどがあり、利用者や来訪者は季節を感じることができる。共用空間には、古いお釜やお櫃、草履などの古い道具が飾られ、利用者にとっても懐かしさを感じる空間づくりがされている。また、事業所内は掃除も行き届いており、快適な環境となっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	消臭剤を起きいい香りがするようしたり、毎日掃除の時間を設けている。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	リビング横に台所があり、調理の音が聞こえたり、匂いがしてきて五感を刺激し、季節がわかるように、装飾したり、花を飾ったりしている	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	生活の中で気の合いそうな人を隣同士にしたり、トラブルがありそうな時は間に入り、その後席を考えたりしている。居室にも自由に帰り、テレビを見たり昼寝をする方もある。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	車椅子で入る場合トイレに、長いのれんを付け扉を開けなくても、見えにくくしている	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人が使っていたものを持ってきてもらうようにしている。	○	/	/	居室には、ベッドやクローゼット、洗面台が備え付けられている。居心地のよい環境となるよう、居室に自宅から馴染みの物を持ち込むことができる。テレビや家族等の写真を飾っている利用者もいる。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	トイレはわかりやすく表示したり、それぞれの居室は表札を付けたり大きく名前を書いたりし、分かりやすくしている。また、それぞれのできる事をリハビリ職員に評価してもらい、職員が把握し、できることが継続できるよう心掛けている	/	/	◎	浴室やトイレには、利用者が認識しやすいよう大きな表示している。トイレや廊下には手すりを設置しているほか、廊下には数か所ソファを置き、利用者が移動しやすく、ひと休みできる場所を確保するなど、生活しやすい工夫をしている。また、居室の入り口には手作りの表札を掲げ、利用者入室が分かりやすいよう工夫している。ユニットの出入り口には、利用者「外出する際には、職員に声を掛けてほしい」と貼り紙をしている。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	タンスや食器棚に何が入っているかわかるように表示したり、自分の部屋がわかるように表札を付けている	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	人によっては自由に居室でお茶を沸かして飲む方もある。新聞は皆が読めるよう、ホームで購入している。お手玉や本なども置いてあり、自由に取れるようにしてある	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関や居室には鍵はしておらず、居室は好きな時間に入れるようにしている。2階の入り口にはセンサーは設置しており、出る時は声掛けできるようにしている	◎	◎	◎	20年前の開設当初から、事業所では日中施錠をしておらず、職員はユニットの出入り口に設置してあるセンサーで対応している。職員はお互いに声をかけ合いながら、協力して利用者を見守っている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	夜間の鍵に関しては、時間を説明し鍵をかせせてもらっているが、日中について、鍵をかけてほしいと言われる家族はいない	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけたままでもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	一階二階の出口にはセンサーを設置しており、センサーが鳴ったら必ず、確認するようにしている。また、帰宅願望がある時など、職員が見守りを特に気をつけている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	一人一人の病歴や服薬している薬がすぐわかるように、一覧表にしている。また、注意することは日誌に記入し申し送りしている				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	何か変化があった時は、個人記録に残し、申し送りして報告し話し合うようにしている				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	訪看が来る曜日以外でも、気になる時は相談すると、看護師が見に来てくれ、必要に応じて主治医も往診に来てくれる。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師を受診できるよう支援している。	○	今までの手術歴や病歴が分かるようにしてあり、主治医も毎月往診後に診療情報提供書を作成してくれている	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	何かの病気が疑われる場合、主治医から家族に説明してもらうように配慮し、今後の方針について話し合うようにしている				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	職員同行で通院した場合は受診結果を電話で伝えたり、本人が意思疎通が可能な方は、本人の希望を聞いたり、ドクターの話を再度説明して理解できるようにしている				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院の際は職員が付き添い、病院との連携をとり、症状やホームでの生活を説明したり、サマリーに記録し情報提供している				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	グループ内の病院に入院することが多く、入浴日に洗濯物を取りに行くようにしてあり、その際情報を聞くようにして連携している				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	行事や勉強会で会うことはあるが、挨拶をする程度になっている。外来看護師は訪問看護として、来てくれるため密に連絡を取っている				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	いつもと変わったことがあれば、訪看に連絡し指示を仰いでおり連携が取れている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	外来看護師と訪問看護の契約を交わしており、24時間いつでも、連絡が取れる体制にしている				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	月に1回の往診があり、食事量やバイタルなど、状態の変化を伝え相談している。また、年に2回入所者検診があり、前回との変化など主治医より説明がある				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	◎	すぐわかるように、薬表にまとめてあり、新しい薬の時は薬の効能や副作用について調べたりし、職員一人一人が把握できるようにしている				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	調剤薬局とも連携を取り、薬袋に氏名や薬の名前、朝、昼、夕と記入され色分けしてある。また、名前を確認し薬を飲んでもらうよう配慮している				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	薬の変更があった時はしばらくバイタル測定をするなど、変化がないか確認している				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	頓服として出ている眠剤は、眠れそうな時は服薬を見合わせたり、往診や訪看の日に変化があれば報告している				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	終末期に近づいてきたら、家族に意向を再度確認したり、食事が減ってきたことの報告をし、意思表示のできない本人の代わりに、家族との話し合いを時々している	/	/	/	母体法人は医療機関であり、終末期が近づくと入院を希望する家族も多い。事業所では看取り支援も行っており、利用者や家族、主治医とも十分に話し合って支援方針を決めている。現在、事業所には終末期を迎えた利用者があり、事業所で看取り支援を実施する方向で、家族や訪問看護師、主治医と相談しながら穏やかに支援している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	△	看取りの勉強会に参加したりしている職員もあるが、最近では参加できていない。重篤化してきた方の家族の意向は主治医に伝えている	○	◎	/		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	その都度職員と話し合ったり、家族の協力体制などを聞き、連絡を取るようになっている	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入所時に食事が口から食べられなくなったり、医療行為が長く続くようになるとホームでの生活が難しくなることを伝え理解してもらっている	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期や病状の変化があった時は、主治医、家族、職員でカンファレンスをする機会を設けている。また、職員でも情報を共有し、申し送りをしている	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族へその都度電話で報告したり、毎月のお手紙で現状などを報告している。主治医の考え等も伝え、安心できるよう心掛けている	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癩、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	従来は勉強会があったが、現在はコロナウイルスの予防で勉強会はないが、グループ内の感染委員会より、注意事項などが、メールされてくるため、皆で情報共有できるようにしている	/	/	/	母体法人は医療機関であり、終末期が近づくと入院を希望する家族も多い。事業所では看取り支援も行っており、利用者や家族、主治医とも十分に話し合って支援方針を決めている。現在、事業所には終末期を迎えた利用者があり、事業所で看取り支援を実施する方向で、家族や訪問看護師、主治医と相談しながら穏やかに支援している。	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	△	感染症のマニュアルはあり、昨年までは訓練もしたが、今年は、コロナウイルス流行の為メールでの注意事項を職員が読み、把握している	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	◎	頻りにグループ病院の感染委員の医師よりメールにて注意事項、最新情報が届くため、職員が周知できるようにしている	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	グループ病院の感染委員会より、かなりの情報を送ってくれており、新しい情報をもとに、対応も変えている	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなども徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	現在は特に、手洗い、手指消毒が徹底されており、来訪者に関しても、張り紙にて注意喚起している。利用者にも食事前の手洗いは徹底して行ってもらっている	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>II. 家族との支え合い</b>									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	△	困ったことなどは相談し、ホームとしての対策を説明している。毎月、近況報告のお便りを送り、日ごろの様子わかるようにしている	/	/	/	毎月、家族へ事業所の便り等を郵送し、利用者の状況を伝えているほか、職員は適宜電話連絡もしている。現在は、新型コロナウイルス感染症対策で行事を中止や縮小をせざるを得ないが、年間を通して行事はあるため、納涼祭やいちご狩りなどには家族も参加している。また、事業所では、年2回家族会を実施しており、約9割の家族が参加し、相互の意見交換をしている。法人内で職員の異動もあるが、このところ職員の入退職はない。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	現在はコロナ対応で、午後からの面会で30分など決めているが、居室に椅子を用意し、家族でくつろげるよう配慮している。以前はコーヒーなど一緒に飲めるようにしていたが、今は自粛している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族さんに行事の案内を出し、イチゴ狩りなどに行っていたが、コロナ対策で今は自粛している	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	◎	伊予の郷たよりを年4回発行したり、毎月、お便りを出し、一か月の様子わかるようにしている。また、写真や本人が書いたはがきなどを、同封するときもある	◎	/	◎	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会に来た時にじっくり話し、病状が変化したときには、電話で報告し必要に応じて、医師を交えたカンファレンスを行うこともある	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	家族の中には、認知症の症状に戸惑ったりする時もあり、日頃の様子や言葉から本人の気持ちを代弁する時もある	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	毎月のお便りや、運営推進会議で報告している	x	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	年に2回家族会を開いて、交流を図っていたが、インフルエンザとコロナの流行でこの2回は中止となっている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	問題点があればその都度、連絡、相談している	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	面会時には職員の誰かは話しかけ、近況を報告したり、気になることがあれば答えている	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居届があり、重要事項説明書を用い、入居時には細かく説明している。退去時には退去届がある	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	病気で長期入院になる場合や医療が必要となる場合は主治医を交えたカンファレンスを行い、納得され退去されている。系列病院へ受け入れてもらうケースが多い	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金などが改定した場合は、説明の書類を送り、同意書にサインをしてもらっている	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>Ⅲ. 地域との支え合い</b>									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	△	設立段階のことははっきりわからないが、地域の方が入所されることも多いので、長年の間に理解してくださっている方も多い	/	○	/	管理者は、以前から事業所と地域とのつながりを課題と捉え、事業所の避難訓練などの行事には地域住民に参加してもらうほか、地域の行事にはさらに積極的に参加したいと考えている。今後は、地域住民にグループホームの理解を深めてもらえるよう、地区の会議に参加させてもらうことなどを検討している。また、日頃から、事業所には地域住民が畑で取れた野菜を届けてくれたり、防災訓練に参加してもらったりするなどの交流をしているため、管理者は、「さらに、もう一歩地域に踏み込んだ交流をしていきたい」と積極的である。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	×	地域の方から野菜や米を購入したり、運営推進会議に参加してもらい繋がりを持つようしている。また、お祭りなどで神輿に入ってもらうなど交流をしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	×	元入居者の家族さんが今も野菜を分けてくださる事はあるが、なかなか地域との交流はできていない	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	×	知り合いがいる方は、会いに来て下さるが、気軽に遊びに来て下さる方は少ない	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	×	坂道の途中にあり、気軽に声を掛けてもらう環境ではなく、お話できる機会も少ない	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方にホームの敬老会などで踊りを披露してもらい、盛り上げてもらっている	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	△	一部ではあるが、買い物に同行され、好きな物を購入したりATMを利用しお金の管理を自分でされている方もある	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	毎日食材の買い出しに行っているスーパーにはグループホームと理解してもらっている。消防訓練などで地域の方や消防署などに協力は得ているが、今年はコロナ対策で、ホーム内だけで消防訓練を行った	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	決まった家族の方の参加は多いが、運営推進会議を兼ねた家族会は地域の方や多数の家族の参加がある。しかしコロナ対策で何回かお便りでの報告となっている	/	○	○	運営推進会議には、家族や地域住民にも参加してもらい、利用者の様子も見てもらえるようリビングのスペースを活用して開催している。管理者は、市内の他のグループホームの運営推進会議にも参加させてもらっており、会議の議題や開催方法などの情報交換をしている。また、会議では日頃の利用者の様子や外部評価の結果などを丁寧に報告し、参加者からも意見をもらうことができている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事の報告をしたり、新しい取り組みを説明したりしている	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	ホームからの報告が多くなるが、地域の方から意見を聞いたり、家族の方に感想を聞いたり意見交換し、参考になっている	/	○	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	出席者が少ないこともあり、曜日を変えてみたり、家族の方に参加しやすい曜日を聞いたり、試してみている	/	○	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	△	議事録は毎回、作成しており、職員間で把握している。他の家族の方には公表はしていない	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
<b>IV.より良い支援を行うための運営体制</b>									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホームの運営理念は壁に掲載されており、日々理念に基づいて、入居者と接するようになっている				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	△	ホームページには公表している。また、ホームに入ったら、わかるように壁に貼っている	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	×	今年はコロナの関係で研修に行けていないが、昨年は、法人内の研修に行ったり外部の研修に行っていた				法人として福利厚生が充実しており、スポーツ大会などのレクリエーションで職員同士の交流を図るほか、定期的に個別面談があり、職員の悩みなど相談ができる体制もできている。暑い時期には事業所の職員の熱中症を心配し、法人として飲み物の差し入れがあるなど、職員は様々な面で働きやすさを感じている。職員は交代で、法人内研修や外部研修に参加できる体制もできている。また、法人・事業所として、働きやすい環境づくりできているため、勤続年数が長い職員が多く、離職者も少ない。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	×	仕事として、研修に参加していたり、平等に行けるよう声掛けしていたが、最近では研修も行けていない				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	年に2回、ラダー表で自己評価し管理者も評価し、代表者も把握している。面接でも日ごろの労をねぎらい、職員の意見も聞き向上するよう努めている				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	管理者の会に参加したり、ケアマネの連絡協議会に参加し交流を図っているが、相互研修などが、最近できていない状況だ				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	ストレスチェックをし、その結果が表になり、助言があったり、個人的に話を聞いたりしている	○	○	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	勉強会にはなかなか参加できていないが、声掛けやケアが不適切と感じたら職員で話し合うことはあるが、職員も理解できている				職員は法人内研修や外部研修に参加して、虐待防止等を学んでいる。事業所では、職員間のコミュニケーションが取れていることから、不適切なケアが疑われた場合には、職員同士お互いに声をかけ合える環境づくりができている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	年に2回は面接もし、ケアを振り返ったり、毎月、カンファレンスをするとともに、話し合っている				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	日々の生活の中で互いに注意し合ったり、話し合い不適切なケアにならないように、気を付けている				
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	体調不良の時、腰などに痛みがある時は、相談するように話しており、無理をしないよう、声掛けしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	△	身体拘束についてのマニュアルはあるが、利用者の状況により、家族と相談しカットテーブルなどを利用し、安全を優先している人もいる				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	目の行き届かない死角の場所や夜間など、注意することを話し合い、改善するように心に掛けている				
		c	家族等から拘束や施設長の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	△	夜間は玄関は鍵を閉めるが、日中は職員同士の声掛けや、センサーなどで、利用者の動きには注意し、不穏の時などに、本人に声掛けし落ち着いて過ごせるように心掛けている				

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	△	以前は成年後見制度を利用していたので、理解していたが、最近新たに学びの場には行っていない職員は少ない				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現在は情報提供などしていないが、要望があれば相談に乗りたいと考えている				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	現在は支援が必要な利用者はいないが、必要があれば、連携が取れるように準備はしたい				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	訪問看護に連絡を取れる体制は作っており、今までの経験したことを申し送り、急変や事故の発生時に対応できるよう、周知している				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的訓練はしていないが、訪問看護師より応急手当の資料をもらい、いざという時に備え話し合いは常にしている				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	自己報告書やヒヤリハットなどの報告書は職員全員が読み、防ぐための検討をしている				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	変化があれば申し送りやカンファで話し合い、対処法を考え実行している				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	苦情があれば、管理者に報告することになっているが、対応方法までは、検討していない。最近、苦情は特に、聞いてはいない				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	ここ最近では苦情はないが、組織全体で交通マナーなどの注意があれば、書類にて職員全体に周知している				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	大きな苦情はないが、要望などは真摯に受け止めるようにしている。何かあれば、すぐ報告の電話をいれるようになっており、対応策を考え実行している				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	意思疎通できる方は、こちらから声掛けし気になる事はないが、困ったことはないか聞いている。			○	利用者や家族からの要望に対しては、職員から積極的に声をかけるなどの配慮をしており、思いを引き出すことができている。日頃から何かあれば、職員は気軽に管理者や職員に相談できる関係性が構築されている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	無記名ではあるが、意見箱を設けており、参考にしている。運営推進会議で意見を聞いたり、家族会の時、個人的に話し合う機会を設けている。また、面会時に気になる事があれば、話し合っている	◎		◎	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	契約時は苦情窓口の情報提供を行っており、重要事項説明書にも記載されており、お渡ししているが、入所してからは特別情報提供はしていないが言いやすい関係を作っている				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	△	代表者と管理者が密に連携を取っており、職員の意見なども伝わっている				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	管理者に言いやすい環境にはあり、意見や提案はカンファアレンスや申し送りで検討している			◎	

愛媛県グループホーム伊予の郷

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	年に2回自己評価をする機会があり、目標やそれに対する反省を書いたりし、サービスの向上に努めている。	/	/	/	毎回、外部評価のサービスの評価結果は、運営推進会議等の場において、管理者等が丁寧に報告している。前回の外部評価後に、地域の役員交代もあったことから、管理者は「今回の報告ではより詳しく説明し、理解を得たい」と考えている。これまで、参加者から何か具体的なアイデアが出された訳ではないが、外部評価のアンケートからも、家族と地域ともに外部評価についての理解度は高い結果となっている。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	内部の評価後は面接をし、良い点改善点など話し合い、外部評価前には皆で、意見を出し合いながら、意識統一に心掛けている	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	前回外部評価で指摘された事は改善策を考え実行し、より良いサービスができるよう努力している	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	評価結果は、職員間でも目を通し、意識統一を図り、運営推進会議で説明はしている	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	事業所内では成果を確認しているが、運営推進会議では、取り組みの確認はできていない	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	日中、夜間を想定し避難訓練を年2回行っており、マニュアルに沿って、訓練し、消防署から指摘された事やアドバイスなどを記録に残し、周知している	/	/	/	事業所の防災訓練には、地域住民や一部の利用者家族も参加しており、訓練等の協力体制が整っている。訓練には消防署や市内の他のグループホーム等との連携も十分に取れているが、訓練に参加していない家族への報告や伝達が十分でない様子が家族アンケートの結果から窺えた。法人・事業所としての災害への備えについて、家族へ分かりやすい説明を行い、理解が得られるような工夫を期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	いろいろな時間帯を想定して訓練を行っており、消防署からの指摘などを次の訓練に生かしている	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	◎	定期的に消防設備の点検は行っており、避難経路も消防訓練時に確認している。非常食は常に米や野菜はあり、同系列病院に非常食もある	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防訓練時は地域の方にも参加してもらい、消防署の指導も受けている。今回1度、コロナ予防の為、ホーム内だけに消防訓練となった	x	◎	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	同市内のグループホームの消防訓練に参加し、参考にしたり、地域の方、市役所の方などを招いて、避難訓練を行い、消防署のアドバイスももらっている	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	x	地域に向けての関わりが難しく、運営推進会議には参加して頂くが、実践報告にとどまった	/	/	/	事業所には、地域住民からの相談や見学に来ることも多く、積極的に相談支援を行っている。また、日頃から事業所として、地域の関係機関との連携を積極的に行っており、最近では、市内の他のグループホームと相互交流も開始している。管理者は事業所として、相互の他のグループホームの運営推進会議に参加したり、サービス提供など利用者への対応方法や支援方法に悩んだ場合には相談したりするなどの交流を深め、利用者のより良い支援につなげようとしている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	地域の方が、入所の申し込みに来られ、見学される際に、相談に乗る事はある	/	x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	x	地域の方が集まる場所には、なっておらず、今後の課題である	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実施の受け入れに協力している。	◎	看護学生の実習を受け入れており、毎年かなりの学生が認知症を学びに来ている	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	△	他のグループホームの管理者で集まり、情報交換したり、ケアマネの連絡協議会に参加し連携を取っている	/	/	○	